

令和元年度地方創生推進交付金事業の実施状況

◎大田原市への移住・定住促進事業（事業費 20,235 千円：交付金 10,118 千円）

大田原市への新しい人の流れを生み出すために、①大田原市を知ってもらう、②大田原市に来てもらう、③大田原市に住んでもらうという3つのステップの段階的で重層的な施策展開により、人口減少に歯止めをかけることを目的として事業を実施する。

1 事業の実施状況

（1）大田原市移住・定住サポートセンター事業

委託先：特定非営利活動法人やってみっぺよ大田原未来塾

本市への移住希望者のニーズに対応するため、移住希望者の掘り起しから移住後のフォローアップまで、一貫した総合的なコーディネートを実施する機関として、「大田原市移住・定住サポートセンター」を開設し、各種事業を実施した。

①大田原市移住・定住サポートセンター事業

平成28年9月6日、本町1丁目に開設された「大田原市移住・定住サポートセンター」に専従のスタッフが常駐し、移住相談や移住セミナー等を通じて、移住希望者のニーズに合ったサービス提供を行った。

○相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
電話	16	18	16	17	13	12	20	10	17	16	21	13	189
対面	9	5	11	10	13	6	10	10	16	9	12	6	117
メール	8	5	3	3	5	0	3	9	3	6	10	15	70
その他	1	2	1	2	1	0	4	1	0	3	0	0	15
合計	34	30	31	32	32	18	37	30	36	34	43	34	391

○年代別

年代	人数
10代	
20代	12
30代	129
40代	70
50代	70
60代	51
70代	12
80代	11
不明	21
その他	15
合計	391

○男女別

性別	人数
男性	198
女性	181
不明	3
その他	9
合計	391

○相談内容

内容	人数
仕事	144
住まい	173
子育て	37
地域情報	39
支援策	11
セミナー・体験会	28
生活体験	89
その他	24
合計	545

②移住・定住セミナー及び移住者サロンの開催

東京都内における移住希望者掘り起しのための移住相談セミナーの実施、また、移住者同士、移住者と地元住民との意見交換を行う移住者サロンを開催した。

ア 第5回大田原市移住・定住セミナー

東京にて大田原市の紹介を行った。

開催日：令和元年5月10日（金） 午後7時～

場 所：ふるさと回帰支援センター（千代田区有楽町：東京交通会館内）

相談者：1名

イ 第2回とちぎ暮らしセミナー「とちぎ×お店のはじめ方・継ぎ方」

県が主催するセミナーに参加した（県内7市町が参加）。

開催日：令和元年6月23日午後4時30～6時30分

場 所：ふるさと回帰支援センター（千代田区有楽町：東京交通会館内）

相談者：12組14名

ウ 生活体験施設「悠友庵（ゆうゆうあん）」開所

移住体験施設を開所した。

開所式：令和元年6月29日（土）

エ 第4回UIJターン者等&移住者交流サロン

実際に移住してきた方たちの交流会を開催した。

開催日：令和元年8月23日（金）午後6時～

場 所：生活体験施設「悠友庵」

参加者：19名（内移住者9組10名）

オ 第15回ふるさと回帰フェア2019

全国約300の自治体に参加するイベントに参加した。

開催日：令和元年9月7日（土）～8日（日）

場 所：ふるさと回帰支援センター（千代田区有楽町：東京交通会館内）

カ とちぎ市町相談デー「大田原の日」

移住に関する出張相談会に参加した。

開催日：令和元年10月6日（日）

場 所：しごと支援センター（ふるさと回帰支援センター内）

参加者：3組5名

キ とちぎ暮らしセミナー（県北エリア）「Uは何しに県北へ」

県が開催するセミナーに参加した。

開催日：令和元年10月27日（日）午前11時30分～午後1時30分

場 所：ふるさと回帰支援センター（千代田区有楽町：東京交通会館内）

相談者：14組14名

ク その他

・平成31年4月27日（土）に開催された「第19回全国菜の花サミット」にて相談コーナーを開設した。

・令和元年11月2日（土）～3日（日）に開催された「第31回大田原市産業文化祭」において相談窓口を開設した。

③移住体験モニターツアーの実施

主に首都圏在住者を対象に、大田原市の魅力を体験していただくことで、本市での生活を実感し移住の促進につなげるため、移住体験ツアーを2回実施。

ア 第5回移住体験会「とうがらし苗植え体験と先輩移住者宅見学会」

唐辛子の苗植え体験や市内見学、先輩移住者との交流会を実施した。

開催日：令和元年6月1日（土）～2日（日）

参加者：ツアー参加者 2組3名
先輩移住者 9組15名

イ 第6回移住体験会（収穫体験）

唐辛子の収穫体験や市内見学、先輩移住者との交流会を実施した。また、東洋大学国際観光学科の学生が体験に参加した。

開催日：令和元年11月9日（土）～10日（日）

参加者：ツアー参加者3組4名（参加者総数35名）

④お試し居住業務

若杉山荘、湯けむりふれあいの丘ゆーゆーキャビン及び南方古民家を利用して、移住・定住を検討している方に対し宿泊体験を実施した。

- ・ゆーゆーキャビン 3組10名（延べ利用20名）
- ・若杉山荘 2組3名（延べ利用6名）
- ・悠友庵 13組30名（延べ利用96名）

（2）大田原市魅力発信事業「大田笑市プロジェクト」

委託先：A&I 合同会社

本市の魅力発信として、実施してきた知名度向上事業を引き継ぎ、地域における魅力発見、地域への愛着や誇りを持つことで、転出抑制を図ることを目的としたワークショップを開催する。

子どもの笑顔が育つまち。



栃木県大田原市

①市民ライター「大田笑ライター」による魅力発信事業

「大田原市魅力発信サイト」におけるコンテンツのひとつである市民「大田笑ライター」で、昨年に引き続きWebライター講座を実施した。

受講した市民ライターに投稿を通じて、市の良いところを紹介してもらい、首都圏の若者層や移住定住検討者に大田原市の魅力を発信した。昨年より参加者は少なかったが、ワークショップをメインに実施したことで参加者同士の交流が活発になり、楽しく記事投稿を実践することができた。また、ライター専用のフェイスブックページを開設したことで、講座後、参加者へのフォローアップが可能となり、スムーズに運用することができた。

ア 市民ライター養成講座

日 時：第1回：令和元年12月8日（日）午後2時～4時

第2回：令和2年1月12日（日）午後2時～4時

第3回：令和2年2月9日（日）午後2時～4時

会 場：大田原市役所本庁舎1階101 市民協働ホール

講 師：今西敦子 氏（A&I 合同会社代表社員）

受講者：10名



②顔の見えるトークイベントの開催

自治体関係者だけではなく、様々な関係者に登壇していただき、実体験に基づき市の魅力を発信するトークイベントを東京で開催した。また、イベントの Web 掲載（58 件）のほか、開催当日は NHK の生中継を行う等 PR 活動を行った。

ア イベント名：「暗闇でいちごいちえ！いちご3種を食べ比べ」

開催日時：令和2年2月14日（金）午後7時～9時

参加者：23名

ゲスト：栃木県いちご研究所 植木一博 氏

いちご農家 森瑞己 氏、森武寛 氏

“いちご”を題材にしたことで、若い女性の参加が多かった。

昨年から実施している首都圏での PR イベントは、直接本市の魅力を伝える場として非常に有効で、アンケート結果からも多くの方に、「大田原市に行ってみよう」と興味を持っていただくことができた。こういった小規模のイベントを毎年継続していくなど地道な PR 活動が重要であると感じられた。



（3）東洋大と連携した新たな観光資源の発掘事業

委託先：東洋大学地域活性化研究所（国際観光学部国際観光学科）

国際観光学部の古屋教授と須賀教授の各ゼミにおける研究テーマとして、本市の観光資源の洗い出しと観光メニューの検討等を委託し、都市部の若者目線という新たな視点から本市の観光振興を図ることで、本市への若い世代の誘客を促進し、将来的な移住・定住につなげる。

①現地調査

【古屋ゼミ】

日 時：令和元年10月24日（木）

参加者：2年生7名

内 容：市内文化観光施設、商業施設における観光資源調査、関係者ヒアリング

訪問箇所：雲巖寺 クローバーポヌール 天鷹酒造 与一伝承館・那須神社

hikari no cafe 蜂巢小珈琲店

【須賀ゼミ】

日 時：令和元年11月9日（土）～10日（日）

参加者：2年生18名

内 容：市内文化観光施設、商業施設における観光資源調査、関係者ヒアリング

訪問箇所：hikari no cafe 蜂巢小珈琲店 与一伝承館 笠石神社 侍塚古墳

風土記の丘資料館 とうがらし収穫体験 お試し住宅「悠友庵」 芭蕉の館

大雄寺 雲巖寺 なががわ水遊園

【井上教授】

日 時：令和元年12月3日（火）～4日（水）
訪問箇所：大田原市とうがらしの郷推進協議会
黒羽支所（協力隊 虻川氏 生産者 小藤氏）
大田原市観光協会 鳳鸞酒造 市政策推進課（結婚支援事業）

②令和元年度研究報告会

日 時：令和2年2月4日（火） 午後2時～5時
会 場：東洋大学白山キャンパス10号館3階304教室

各ゼミによる観光プラン及びパンフレットの提案を内容とした令和元年度分の研究成果報告が行われた。

【古屋ゼミ】

①『「農泊」による観光振興』

⇒観光地に求められる非日常感の薄さや周遊型観光の難しさを逆手に取り、都内の大学生を対象に「ありのままの田舎暮らし」を体験し、魅力を伝える提案。

②『地域ブランドならびにコミュニケーション戦略を考慮した誘客に向けて』

⇒地名が持つイメージの集合体を「地域ブランド」とし、天鷹酒造・クローバーポヌール・hikari no cafe 蜂巢小珈琲店を取り上げ、都会の若い女性をターゲットに自然・体験・ヒトにフォーカスして魅力を伝える提案。

【須賀ゼミ】

①総合班「移住体験ツアーの有効性」

⇒とうがらし農業体験や先輩移住宅訪問、本格移住体験を通じ、かつ既存の観光資源・アクティビティーを組み込むことで観光要素も付加した体験ツアーの提案。

②食文化班「大田原市の食文化を通じたツーリズムの提案」

⇒那須塩原市と比較して食文化に強みを見出し、「大人の女子旅」「子供と行く大田原（旅育）」という2パターンのツアー提案。

③教育旅行班「廃校利用とチームビルディング」

⇒塩谷町の廃校施設（星ふる学校「くまの木」）や旧須賀川小学校を活用した小学校体験ツアー（2014年JTBが実施）を参考に、廃校を活用し、企業等を対象としたチームビルディング旅行を実施する提案。

④文化コンテンツ班「栃木県の大田原市における「日本一ブランド」の探求」

⇒市が有する日本一のコンテンツ（とうがらし生産量、那須国造碑、星空など）をパッケージして「日本一のまち」としてPRし、車で移動できる近隣県（茨城県、群馬県）からの誘客を図る提案。

【井上客員教授】 ※資料配布のみ

『大田原市における「とうがらし」による観光振興について』。市内のとうがらし関係団体等からの取材を基に考察し、各機関（行政・商工会・観光協会・農協等）の連携による協力体制の整備の必要性に関する内容。

2 KPIの達成状況

移住・定住サポートセンターの開設後、様々な方法による周知や積極的な活動を通じて、全体的には成果目標を達成した。特に、首都圏でのPRや等の成果により移住相談件数が大幅に増加し、移住世帯数も目標を達成した。また、DCキャンペーンとの相乗効果もあり、目標には達しなかったが観光入込客数も順調に増加した。

KPIの設定 (地域再生計画より)	目標値	令和元年度 指標値	令和元年度 達成状況
移住・定住サポートセンターを活用した移住世帯数	20世帯 (累計)	10世帯	15世帯 (累計29世帯)
大田原市への移住相談件数 (H30改定前120件/年)	250件/年	100件/年	391件/年
「地域ブランド調査」における認知度の順位	401位	401位	—
大田原市の観光入込客数 (H29改訂前320万人/年)	347万人/年	336.5万人/年	343万人/年

※地域ブランド調査は未発表

◎大田原市生涯活躍のまち推進事業（事業費 7,511千円：交付金 3,756千円）

これまでの「医療・福祉の充実」への大田原市の取組を地域資源として捉え、アクティブシニアが元気なまま安全で安心して過ごせる生涯活躍のまちづくりに取り組むことにより、市民の健康増進、社会参加促進のみならず、中高年齢層の移住者増加、若年層の雇用創出による転出抑制等を図ることにより、人口減少に歯止めをかける一つ的手段としていく。

具体的には、平成28年度に策定した「大田原市生涯活躍のまち構想」に基づき、30年度に「大田原市生涯活躍のまち基本計画」を策定し、地域性を活かした次の3パターンのモデルを軸とした地域づくりを推進することとした。

- ・ 中心市街地における都市機能集積を活かした高齢者活躍環境強化モデル
- ・ 農山村部における多世代共生コミュニティモデル
- ・ 国際医療福祉大学近隣地域における医療福祉サービス充実モデル

令和元年度は佐久山地区を事業エリアに設定し、地域づくりを進めるほか、講演会や移住体験ツアーを開催するなど、PR活動を行った。

(1) 大田原市生涯活躍のまち推進協議会の運営

大田原市生涯活躍のまち基本計画及び形成事業計画の策定にあたって、外部有識者を含む関係者が参加する大田原市生涯活躍のまち推進協議会を設立し、事業内容について検討した。

①第1回大田原市生涯活躍のまち推進協議会

開催日：令和元年11月29日（金）

出席者：12名

②第2回大田原市生涯活躍のまち推進協議会

開催日：令和2年2月27日（木）

出席者：12名

(2) 大田原市生涯活躍のまち推進のための啓発、PR活動

大田原市生涯活躍のまちの推進にあたって、入居者となる移住希望者の掘り起し及び受け入れる側となる地域住民の受け入れ体制の確立のため、生涯活躍のまちの啓発、PR事業を実施した。

①まちづくりシンポジウムの開催

開催日：令和2年1月31日

場 所：那須野が原ハーモニーホール小ホール

講 師：東北福祉大学総合マネジメント学部教授 高橋誠一 氏

参加者：350名

(3) 移住希望者を対象とした大田原市生涯活躍のまち現地確認ツアーの実施

本市への移住希望者に対して、本市における生涯活躍のまちの取組を周知するとともに、本市の魅力を経験することで、若い世代の方にも将来的な移住を考えてもらうきっかけとするため、主に東京圏の住民を対象とした現地確認ツアーを実施した。

①「高齢者が元気に活躍できるまち大田原」セミナー

開催日：令和2年1月29日（水）午後6時30～8時

場 所：ふるさと回帰支援センター（千代田区有楽町：東京交通会館内）

参加者：4組4名

②「高齢者が元気に活躍できるまち大田原」現地体験ツアー

開催日：令和2年2月21日（金）～22日（土）

訪問先：とうがらし七味づくり体験 雲巖寺 与一伝承館 等

参加者：8組10名

(4) 大田原市生涯活躍のまちサービス提供体制の構築

委託先：㈱三菱総合研究所

大田原市生涯活躍のまちにおける提供サービス体制の構築のためのプログラム開発、地域コーディネーターの育成や関係団体等に対するサポートを実施した。

2 KPIの達成状況

令和元年度は、昨年決定した運営方針に基づき、佐久山地区を事業エリアとし、「生涯活躍のまち形成事業計画」を策定した。

住民主体の事業が実施され、「高齢者の支援」といった範囲を超えた地域づくりが行われており、目標には達しなかったが人口にも変化が見える。今後は、このエリアをモデルとし、他地区へ事業を展開していく。

KPIの設定 (地域再生計画より)	目標値	令和元年度 指標値	令和元年度 達成状況
地域見守り隊の隊員数	2,590人	80人	2,490人
事業エリアへの移住者数	70人	50人	29人
現地確認ツアーの参加者数	50人	50人	10人
事業における雇用者数	20人	20人	0人

〔広域連携事業〕

◎ツール・ド・とちぎを核とした地方創生推進事業（事業費 1,200 千円：交付金 600 千円）
栃木県内全 25 市町を舞台とした国際自転車競技連合公認レース「ツール・ド・とちぎ」の継続的な開催を通じて、県・県内全市町・民間事業者・金融機関等が一体となって「自転車によるまちづくり」を進め、レースコースの地域資源化を図ることにより、産業やスポーツの振興、通年での観光誘客の促進、中山間地域の振興、若者の郷土愛の醸成と定住促進、農林業の振興等の施策を県全体で波及的に進めていく。

1 事業の実施状況

第 4 回ツール・ド・とちぎの開催経費（物品の制作や購入、広報、PR イベント等に要する費用）について、県及び県内全市町から大会実行委員会に負担金として支出。

令和 2 年 3 月 20 日（金）～22 日（日）に開催を予定したが、コロナの影響により中止となった。

以上